

ニューズ

シネスコ版

最新 no 262 本編に同じ
新登場 no 90
最新 no 177
中日 no 103

No. 427

37. 3. 23

合格おめでとう - 北大入試 - (本編トップへ追加) 114頁
夏みかんの町 - 萩 - (本編トップへ追加) 97頁

スポーツ

一、オリンピックへお手本

世界のトップ・クラスを招いて三月十七、十八日の両日、東京体育館で第二回室内陸上競技大会が開かれました。
二年後のオリンピックをひかえ選手強化にはげむ我国陸上界にとって各選手とも見事なお手本を示してくれました。
なかでも注目的なのは、合成センチで作られたグラスファイバーポールを持ってやって来た樺高飛びのユールセス、記録的には低調でしたが、ポールの弾力性を良く活かした飛越はさすが四米八十九と驚異の世界記録を作った片りんを見せました。

一、お彼岸

— 東京・山梨

今年の彼岸の入りは好天気恵まれて、墓参の客も例年よりぐっと増加が目立ちました。山梨県甲府市の千松院では、生前の声を録音器で再生し、墓参や法事で集る肉身や友人たちに関かせ好評を博しています。
東京南千住・円通寺のおしょうさんも電化マニア、線香点火器、自動墨すり器などを自分で拵へました。今では木魚やお経の「音響学的解明!!」めざして、本堂へ機械をもちこみ、籠りきりの毎日です。

アイモ風土記

一、悩める古都

— 奈良

「青丹によし奈良の都は咲く花のにはふがごとくいまさかりなり」と千数百年の昔、平城宮がおかれて以来、奈良は古文化の宝庫として又日本文化のふるさととしてその命脈を保ってきました。

だがこの古き都、奈良も今日その俗化が問題になり、今又、平城宮跡に近鉄が車庫建設を予定したことから再び世間の注目を集めることになりました。
ではなぜこの古き都が俗化しなければならなかったか。今日迄奈良を支えているものは産業ではなくして観光が唯一の看板、それも飛鳥、天平文化の遺産は遠い昔の語り草、そして奈良のもつ味わいは建物と自然との調和にあるというのが、今日では近代資本の圧力に押されアメリカのデイズイニーを似せて作ったといわれるドリームランド、果ては若草山の中復に夜ともなればあやしげなネオンがきらめく、今日的な欲楽都市として生れ変わっているのです。

更に未開発の産業は次第に大阪の経済圏に吸収され、今や大阪のベッド・タウンにもなりつつあるという有様、そしてこの様な俗化は起るべくして起ったともいわれ、三月十九日の衆院文教委員会では当時者である奈良県知事を喚問して奈良俗化の実態をたじたのです。

67頁

260頁

199頁

116頁